

学校再編検討に向けた基本方針

令和2年5月26日

大野市教育委員会

1 検討事項

現計画における学校数、再編時期、再編方法について検討する。

2 基本的な進め方

- (1) 現計画の検討及び策定過程を十分に踏まえて検討する。
- (2) 令和元年度に行った各種取組の成果を十分に生かして検討する。

3 基本的な考え方

(1) 小・中学校共通

【基本姿勢】…「大野らしさが生きる教育」を進める。

意見交換会で多く話題になったのが「大野らしい教育」である。大野市の人口規模や立地条件および大野市のもつ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の重さ等、その長所を十分に生かすとともに時流をとらえた教育を推進できる環境を整える。

【中心的着眼点】…一定規模の学校

確かな学力の保障と豊かな人間性、調和のとれた社会性の育成のため、多様な人間関係を有する一定規模の集団を確保する。

(2) 小学校

【基本姿勢】…地域で育てる。

① 地域の温かい見守りの中で育てる。

子育ての面からとらえれば、幼少期から小学校期は、「しっかり抱いて肌を離さず、肌を離して手を離さず」の時期であり、なるべく親元で育てる。それが子どもの成長の基礎となる心の安定をもたらす。

② 保護者の不安に寄り添う。

意見交換会やアンケートの中で、保護者の最も大きな不安要素は登下校の距離と時間と方法である。その観点からも、特に小学校の通学区域は広げ過ぎないように配慮する。病気やけが、災害等の緊急時にも学校と保護者の迅速な連携が欠かせない。

③ 地域の協力をお願いする。

放課後の子どもの居場所も保護者の大きな不安要素の一つである。学校が再編されたとしても、子どもを見守り育てる機能が地元が必要である。地域に子どもの姿を残すためにも、地元

の絶大なる協力をお願いする。

【中心的着眼点】 … 通常の学級編制

学級編制の基本は通常の編制である。複式学級は特例措置であり、学校教育本来の目的が十分に達成できるとは言いがたい。小学校教育は地域を基盤とするが、複式学級が出現したり、予想できたりする場合は再編の対象とする。複式学級の解消は最低限の目標であり、喫緊の課題である。また、人間関係の固定化を防ぐためにも、学年の編制は複数学級が望ましい。

(3) 中学校

【基本姿勢】 … 市全体で育てる。

① より広い世界で「生きる力」と「社会性」を育てる。

中学校時代は、「手を離して目を離さず」の段階である。少しずつ親元から離し、自立を支援する。また、より多様な個性をもった友人や大人との関わりの中で、社会的にもバランスのとれた人間性を育成する。

② 専門教科教員による教育を保障する。

学校が小規模化すると専門教科教員を全教科にわたって配置できにくくなる。技能・芸術教科を含め、全教科で知的にも情動的にもバランスのとれた教育を保障する。

③ 部活動の選択肢を広げる。

適正規模化で部活動の選択肢も自然と広がる。ただ、部活動の在り方については、現在大きな過渡期を迎えている。社会スポーツとの適切な関係を模索しながら進める。

【中心的着眼点】 … 専門教科教員の配置

専門教科教員を配置できない場合には、免許外で指導できる制度がある。しかし、この制度も小学校の複式学級と同様に特例である。国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・技術家庭・保健体育の全教科にわたり、専門教科教員による教育環境を整えることが求められる。

(4) その他

- ・児童生徒に過度な負担が想定される等、必要がある場合は別途検討を行う。
- ・校舎の現状や地域の状況等も十分勘案し総合的に検討する。

4 その他

- ・検討過程を公開し、市民が進捗状況を把握できるよう進める。
- ・市全体に関わる再編となる。慎重に丁寧に着実に進める。